

2021 年度事業報告書

2017-22 年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）

国立大学法人 名古屋工業大学
ダイバーシティ推進センター





名古屋工業大学は、2014年に男女共同参画推進センターを創設し、男性に偏りがちな工学の分野に女性の視点や感性を取り込み、女性研究者が活躍しやすい環境を構築して参りました。その後、2017年には文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(特色型)」の採択を受け、ダイバーシティ推進センターと改称し、異なる個性を持つ一人一人が存分に能力を発揮し、活躍できる環境の構築を進めて来ております。

大学においてダイバーシティを推進する意義の一つは、多様な価値観を持つ人々や様々な意見や様々な立場の人たちと触れ合う場を設けることにより、多面的に物事を見る力を涵養できる環境を提供することにあります。技術開発の場においても、このような多面的な見方が、新しい技術開発やイノベーションにつながる可能性があると考えております。

女性研究者支援制度を始めとして、より多くの女性が工学分野で活躍できるよう環境構築を引き続き進めていきます。それとともに、時代に即したダイバーシティ環境をキャンパスに作り出す原動力として、本センターが果たす役割の重要性を強く認識し、魅力あるキャンパスづくりに邁進する所存です。

今後とも、みなさまのご指導とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2022年4月

国立大学法人名古屋工業大学

副学長・ダイバーシティ推進センター長

井門 康司

目次

I. 名古屋工業大学のダイバーシティ推進

1	名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言	6
2	ダイバーシティ推進センター	7
3	工学系女性の着実なキャリアアップを支援	
	(1) 多様性人材育成プログラムNITech CAN for ID	8
	(2) NITech CANの概要と成果	9
4	多様性人材育成プログラムNITech CANの主な取組	10

II. 2021年度事業実施報告

1	意識啓発	
	(1) ダイバーシティ推進シンポジウム・トップセミナー 「多様性を力に変える環境構築のために」	14
	(2) 職員研修 「性自認及び性的指向に関する理解促進のために」	15
2	研究者支援	
	(1) 女性が拓く工学の未来賞	16
	(2) 研究支援員制度	17
	(3) 女性研究者研究促進制度	18
	(4) 英語論文校正支援	19
	(5) NITech CAN「女性研究リーダー養成塾」	20
	(6) 女性研究者メンター制度 第5回メンター研修	21
	(7) ライフイベント支援	22

3	産学連携による取組	
	(1) 女性技術者リーダー養成塾	24
	(2) 産業論	25
4	次世代育成	
	(1) NITech CAN 「工学女子キャリア形成塾」	26
	(2) 全学に向けたダイバーシティ教育	27
	(3) 次世代萌芽インセンティブ	28
	(4) 女性同窓会「鶴桜会」・「OG人財バンク」	28
	(5) 女子学生団体「彩綾～SAYA～」	29
	(6) 女子学生向け夏季オープンキャンパス	29
	(7) 女子中高生工学進路選択支援サイト 「工学の扉を開こう」リニューアル	30
	(8) 女子小中学生のためのプログラミング体験講座	31
5	情報発信	
	(1) 共に創る未来へII ～女子学生・女性研究者からのメッセージ～	32
	(2) ニュースレター	32

1. 名古屋工業大学のダイバーシティ推進



1 名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言



2 ダイバーシティ推進センター



3 工学系女性の着実なキャリアアップを支援

(1) 多様性人材育成プログラムNITech CAN for ID

(2) NITech CANの概要と成果



4 多様性人材育成プログラムNITech CANの主な取組

ダイバーシティ推進センターは、工学系分野で未だ少数派である女性研究者・技術者が個性と能力を十分発揮し活躍できる環境の整備を最優先課題としており、その実現のための意識変革に積極的に取り組んでいます。

2017年11月に「名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言」を公開し、ダイバーシティ研究環境の実現に向けて全学体制で臨んでいます。

名古屋工業大学ダイバーシティ推進宣言

2017年11月22日

名古屋工業大学は、「ものづくり ひとづくり 未来づくり」という教育理念を目標に掲げ、グローバルに活躍する「実践的工学エリートの養成」をめざしています。社会のあらゆる分野でダイバーシティの価値が認識され、その推進と活用が求められている現在、本学は、目標達成を確実にするための最優先課題として、工学系分野で未だ少数派である女性研究者・技術者が個性と能力を十分発揮し活躍できる環境の整備とそれを実現するための意識変革を掲げます。

本学は、多くの優れた女子学生を育成し価値ある技術者として産業界へ輩出すること、そして多くの女性研究者を工学コミュニティの自立した一員として招き入れその活動を弛まず支援することを工学におけるダイバーシティ推進の基盤と位置付けます。その基盤の上に、本学は長年培ってきた産業界との連携を含めた戦略的なダイバーシティマネジメントを通じて、多様な人材活用〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉の実現をめざします。

本学における〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉とは、人種、性別、年齢などの違いだけでなく、宗教、母語、文化・社会的背景などの内面的な差異をも含めた、多様な違いを受け入れて活かすことにより、組織全体の強靭さを高め、さらにはイノベーション創出に繋げることをめざすものです。

これらの理念・目標を踏まえ、名古屋工業大学はダイバーシティに基づくオープンイノベーションの実現に貢献するため、以下の基本方針を掲げて積極的に活動することを宣言いたします。

基本方針

1. ダイバーシティ推進の視点に立った教育・研究環境の整備を行う
2. ダイバーシティ推進とその活用の観点から、全構成員の労働環境の整備を行う
3. 〈ダイバーシティ・アンド・インクルージョン〉の実現に向けた意識変革に努める

名古屋工業大学ダイバーシティ推進センターは、2017年度「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」に採択されたことを受け、男女共同参画推進センターの発展的再編を経て、2017年10月に発足しました。

2014-2016年度「女性研究者研究活動支援事業（一般型）」の下で構築した従来の女性研究者支援の取組をさらに進化・拡大する「多様性人材育成プログラムNITech CAN for ID」を新たに構築し、研究者支援と次世代育成を主軸とする取組を幅広く継続的に実施しています。



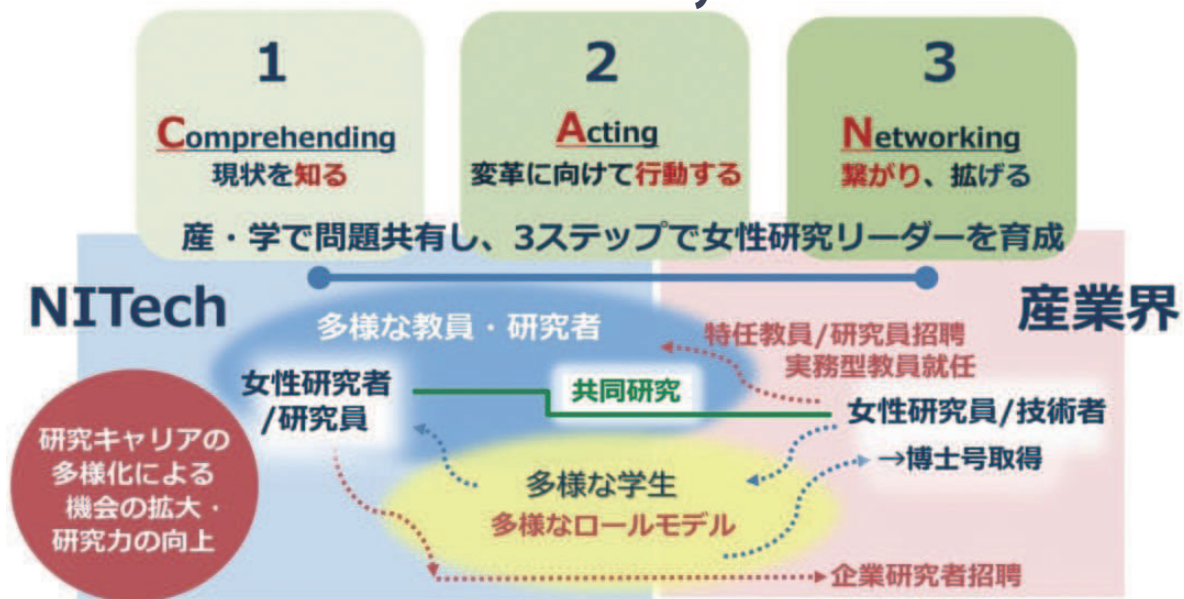
(1) 多様性人材育成プログラム NITech CAN for ID

あらゆるステージの女性工学人材を育成対象に

本学は、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」の下で、研究に従事しながらもこれまでキャリア形成支援の対象ではなかった非常勤研究員にも注目し、将来有望な女性研究員を発掘して支援の対象から漏らさず育成し、女性研究者に着実なキャリアアップの道筋を作る「多様性人材育成プログラム：NITech CAN for Innovative Diversity」を構築しました。

「多様性人材育成プログラム：NITech CAN for ID」とは、本学が長年培ってきた産学官連携の実績を背景に、工学分野のダイバーシティを高めるために必要な、「知る=Comprehending、行動する=Acting、繋がり、広げる=Networking」の3つの指針を産業界と大学が一体となって遂行するしくみです。

多様性人材育成プログラム NITech CAN for Innovative Diversity

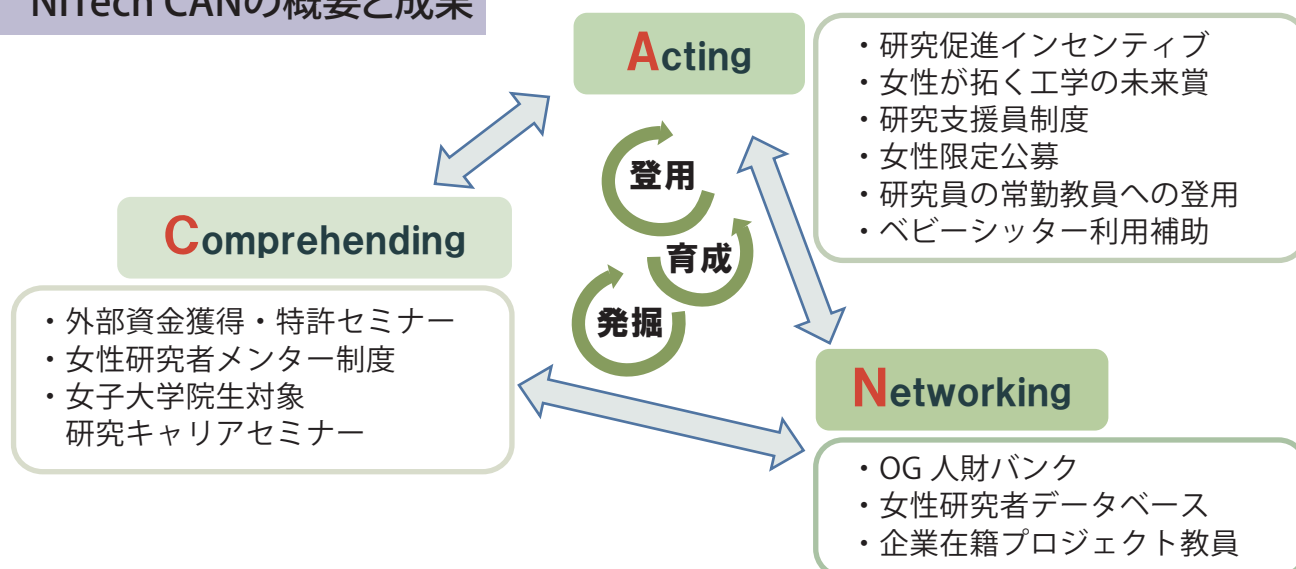


女性の可能性を広げる

産学が一体となり、学生から研究員、研究者、研究リーダーまでの全てのステージの女性工学人材に対して、育成と支援を行うことで、女性工学人材の流動性・機動性を高め、女性研究者の増加を目指します。企業には、さまざまなレベルで研究・開発に携わる女性が存在します。こうした高いポテンシャルを持った工学系の女性たちが本学の女性研究者と共同研究を行ったり、博士課程に社会人として入学し、学位を取得して業績を積むことで、従来のルートとは別の女性研究者育成の道を拓くことができます。

工学を志す女性にとって、研究キャリアへの多様な道を拓くことは、活躍の場や方法において多様な選択肢と可能性が広がることにつながります。多様な未来を思い描ける分野は、次世代を担う女子中高生にとっても、魅力的な進路になります。「C：知る・A：行動する・N：繋がり、広げる」の3つの指針を産学で共有し、ダイバーシティ研究環境を実現していきます。

(2) NITech CANの概要と成果



「C：知る・A：行動する・N：繋がり、広げる」の3つの指針は、各取組の категорияとして機能しています。

「C：知る」の取組として、研究力や女子学生の研究キャリアへの意欲を高めるためのセミナー開催、メンターが女性研究者の課題を把握してキャリアアップのための道筋を示し導く「女性研究者メンター制度」があります。

「A：行動する」では、女性限定公募などのポジティブ・アクションに加えて、研究助成金付与、優れた研究業績を挙げることが期待される本学の女性研究者を対象とする学長褒賞「女性が拓く工学の未来賞」による顕彰によって、女性研究者の研究力とプレゼンスの向上をバックアップしています。また、ライフイベント期の研究者に対しては性別を問わず、研究支援員の配置、ベビーシッター利用補助制度などでサポートを行います。

「N：繋がり、広げる」では、OG人財バンクを通しての女性工学人材の発掘、女性研究者データベースの公開による産業界との共同研究の推進、企業在籍の女性研究者・技術者をプロジェクト教員として本学に招聘する取組により、産業界との連携を強化しています。

C・A・Nの好循環が生み出す成果

2021年度に5年目を迎えた、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」事業では、学内でC・A・Nの取組が定着し、発掘、育成、登用の好サイクルが形成され、工学系女性人材の育成と上位職登用への道筋を示す着実な成果が表れています。

本学におけるダイバーシティ・インクルージョン環境をより一層推進する目的で、2020年4月に創設された女性研究者育成制度「スタートアップ助教制度」では、これまでに2名の助教が採用されました。

また、事業開始後、10件の女性限定公募による採用を行うとともに、非常勤研究員・特任教員から、より上位の職への登用も2018年度から毎年実現しています。

さらに、女性工学人材の裾野拡大を目的とする新事業として、女子中高生工学進路選択支援サイト「工学の扉を開こう」をダイバーシティ推進センター公式サイトに設置、公開しました。女子中高生を主な対象として、工学部での学びとその魅力、卒業後のキャリアの情報を発信しています。

次世代育成

- step 1. **C**omprehending
 step 2. **A**cting
 step 3. **N**etworking

研究者支援

イノベーション創出の鍵となるダイバーシティ豊かな人材育成を目指し【次世代育成】と【研究者支援】を2つの重要ミッションとして掲げます。

地域産業界・同窓会との協働を通じ、これらを **C・A・N** の3つのステップで着実に遂行します。

Comprehending 現状を知る

工学女子キャリア形成塾

研究キャリアへの誘導

全学に向けたダイバーシティ教育

正課科目にダイバーシティ教育を整備

女性研究リーダー養成塾

共同研究・競争的資金獲得支援

メンター制度の拡充

メンター研修の実施

Acting 変革に向けて行動する

中高生の理系選択支援

企業・自治体との連携

スタートアップ研究費付与

大学院生への研究動機付け

特任研究員等の常勤教員登用

ポジティブアクション

研究促進インセンティブ付与

大型科研費獲得、共同研究の促進

リスタート研究費の付与

キャリアを中断した研究者の復帰支援

ライフイベント支援の拡大

研究員等に支援範囲を拡大

Networking 繋がり、広げる

OG人材バンクの拡充

企業研究者、技術者、院生も参加

大学間連携会議の実施

所属、職位、世代を超えた情報交換会

女性研究者データベース公開

共同研究に向けた女性研究者情報の集約と公開

女性研究者・技術者の会活動

連携企業研究者・技術者とも連携

プロジェクト特任女性教員の増員

連携企業から招聘



女性が拓く工学の未来賞

優れた研究業績を挙げることが期待される学内の女性研究者を表彰することにより、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の発掘と育成を図っています。



女性研究者データベース

工業大学ならではの研究シーズを持つ本学の女性研究者と産業界および地域社会の連携を促進するため、名工大の女性研究者の代表的な研究を公開しています。

女性研究リーダー養成塾

研究力向上セミナー

女子大学院生・女性研究者のキャリア形成を目的とする研究力向上セミナーを年2回開催しています。



ダイバーシティ教育

イノベーションにおけるダイバーシティの重要性を学ぶダイバーシティ・男女共同参画関連科目を正課科目として開講しています。

女子中高生進路支援オンラインサイト

2021年度より名古屋工業大学単独主催のサイトとして改変し、新たな動画3本を公開しました。次世代を担う女子学生に幅広い工学の魅力を伝える目的として、常時公開しています。



彩綾 ～ SAYA ～

女子学生団体「彩綾～SAYA～」は、学科・学年をこえて繋がり、名工大の女子らしく今も未来も輝ける場を作るため、2014年10月に設立されました。

II. 2021年度事業実施報告

1 意識啓発

- (1) ダイバーシティ推進シンポジウム・トップセミナー
「多様性を力に変える環境構築のために」
- (2) 職員研修「性自認及び性的指向に関する理解促進のために」

2 研究者支援

- (1) 女性が拓く工学の未来賞
- (2) 研究支援員制度
- (3) 女性研究者研究促進制度
- (4) 英語論文校正支援
- (5) NITech CAN「女性研究リーダー養成塾」
- (6) 女性研究者メンター制度 第5回メンター研修
- (7) ライフイベント支援

3 産学連携による取組

- (1) 女性技術者リーダー養成塾
- (2) 産業論

4 次世代育成

- (1) NITech CAN「工学女子キャリア形成塾」
- (2) 全学に向けたダイバーシティ教育
- (3) 次世代萌芽インセンティブ
- (4) 女性同窓会「鶴桜会」・「OG人財バンク」
- (5) 女子学生団体「彩綾～SAYA～」
- (6) 女子学生向け夏季オープンキャンパス
- (7) 女子中高生工学進路選択支援サイト
「工学の扉を開こう」リニューアル
- (8) 女子小中学生のためのプログラミング体験講座

5 情報発信

- (1) 共に創る未来へII～女子学生・女性研究者からのメッセージ～
- (2) ニュースレター

(1) ダイバーシティ推進シンポジウム・トップセミナー

「多様性を力に変える環境構築のために」

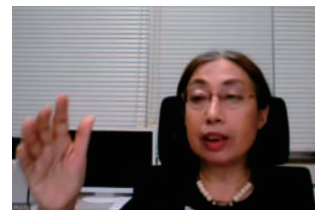
2021年9月15日、名古屋工業大学ダイバーシティ推進シンポジウム兼トップセミナー「多様性を力に変える環境構築のために」をオンライン開催しました。本シンポジウムはダイバーシティ研究環境の実現に向けた意識啓発を目的とするもので、学長はじめ本学役員、教育類長、センター長等で構成されるダイバーシティ推進委員会委員及び学内外申込者66名が受講しました。

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）プログラム主管の山村康子氏を講師にお迎えし、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの実績と今後の動向」についてお話しいただきました。JSTのこれまでの女性研究者支援の取組の成果として、女性フェルミア教員の離職を85%減らせたこと、一方、課題として、研究統括者となる女性研究者の割合が向上していないことが挙げられ、女性研究者の上位職登用にに向けた取り組み強化の方向性が示されました。



山村康子氏

特別講演では、国立大学法人奈良女子大学 三成美保教授より、「多様な性を包摂する環境づくりのために」と題して、大学におけるSOGI（性的指向、性自認）対応の重要性についてご講演いただきました。豊富な調査データをもとに、国際動向や日本の現状を詳しく説明され、個人の性自認や意向に即した生活が尊重される環境構築に向けて大学が取り組むべきことを明確に示されました。講演後の質疑応答では、オールジェンダートイレの導入の際の留意点、大学での他の取り組み、大学の今後のダイバーシティ施策の在り方について、活発な意見交換が行われました。



三成美保氏

参加者のご意見・ご感想

- ・カミングアウトが普通に受け入れられることが真の理想、というご発言は、とても自分に響きました。自身の意識について考え直す機会となったようにも思います。有難うございました。
- ・思春期に入る男女の子どもがおります。彼らとの生活の中で、多様性を感じる事が多く自身の子も時代とは、まったく違うと感じることも多いため、シンポジウムを興味深く拝聴いたしました。
- ・セクシュアリティの多様性への配慮や、工学分野におけるダイバーシティ推進の重要性を知ることができて、有意義だった。

基調講演「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの実績と今後の動向」

講師：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）プログラム主管 山村康子氏

特別講演「多様な性を包摂する環境づくりのために」

講師：国立大学法人奈良女子大学 教授 三成美保氏

日時：2021年9月15日

会場：オンライン（Zoom Meetings）

対象：学長、本学役員、教育類長、センター長ほか *学内教職員・学生・一般聴講可

参加者：66名

(2) 職員研修

「性自認及び性的指向に関する理解促進のために」

職員研修「性自認及び性的指向に関する理解促進のために」をオンライン開催しました。LGBTQ当事者の就職転職支援を行う、株式会社Nijiリクルーティング 代表取締役社長 齋藤敦氏を講師にお迎えし、性自認、性的指向（SOGI）の基礎を理解し、当事者の声を聞く機会としました。

講演は、理解しているつもりでも誤解があるSOGI、LGBTQに関わる用語のクイズから始まり、私たちが正確に知っておくべき基本事項が説明されました。

講演の中盤には、民間企業に勤務するXジェンダー（性別を定めない）当事者の方が登壇し、男性として就職活動を始めてから、入社後に職場で性自認をカミングアウトして、自分らしく勤務する現在までの流れを詳しくお話しされました。学生時代に最初に参加した大学での就職説明会で、男女二つの性を前提に性別を分けて説明された違和感から、その後は大学の就職支援を利用しなくなったこと、就職後、配属先での周囲の反応と自分らしさとの間で揺れて、カミングアウトを決意するまでの心情を丁寧に説明いただきました。参加者は、研修を通して、誰にとっても安心して安全な職場づくりを考えていくために重要な視点を得ることができました。



齋藤敦氏

参加者のご意見・ご感想

- ・LGBTQは言葉としては知っていたし内容もなんとなく分かっているつもりではいたが、実際に聴いてみると知らないことや勘違いしていたことも多く、大変勉強になった。
- ・性の多様性について知っているつもりでも、改めて学びなおしてみると、自分は深い知識は持っていなかったと気づかされました。今一度自分のことについて考えるいいきっかけになったし、周りの性についても見た目等で判断しないようにしようという気持ちの変化にもつながり、とてもいい経験になりました。
- ・経験談を聞くことができ、理解が深まりました。今後の取り組むべき重要な事案と感じます。
- ・今後、この内容は誰にとってもより現実味を帯びてくる問題だと思います。理解を深め、対応できるようになることが必要だと感じました。

日時：2022年3月14日
講師：株式会社Nijiリクルーティング 代表取締役社長 齋藤敦氏
会場：オンライン（Zoom Meetings）
対象：本学所属の職員
参加者：当日34名

(1) 女性が拓く工学の未来賞

2021年度「女性が拓く工学の未来賞」授賞式が2021年10月4日に行われました。この賞は若手女性研究者を表彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成を図り、これによりダイバーシティの推進に資することを目的するものです。

本年度は、優秀賞をアヤル アヤド フセイン アルズバイディ 研究員（生命・応用化学専攻）、奨励賞を富田紗穂子氏（生命・応用化学専攻 博士後期課程3年）が受賞し、表彰状とトロフィー、副賞が授与されました。



< 優秀賞 >
アヤル アヤド フセイン アルズバイディ 研究員

女性が拓く工学の未来賞 受賞者の声



アヤル アヤド フセイン
アルズバイディ 研究員
生命・応用化学専攻

このような栄誉ある賞をいただき、とても光栄に思います。

私は、名古屋工業大学の博士課程に入学する際に、専攻を化学工学から材料科学に変更したため、日常生活に必要な言語の知識も、研究課題の科学的バックグラウンドもない状態で、留学生として日本にやってきました。このような不足がありながらも、周囲の方々から無限のサポートを受け、先見性のある教授のもとで、優秀な学生たちと一緒に研究をするという幸運に恵まれました。

博士課程で、そして研究者としてこちらで過ごした年月は、私を科学者として、また人間として大きく変えてくれました。さらに、再生可能エネルギーによる持続可能な社会の実現、環境汚染や気候変動への対応という、現代の社会において最も野心的で挑戦的な目標を追求する貴重な機会を与えてくれました。

ここまでの道のりは、ハードワークに満ちた地道なものでしたが、喜ばしい成果もありました。この栄誉ある賞に寄せて、教授、研究チーム、日本で第二の家族となった友人たち、そして、もちろんイラクの家族など、数え切れないほどの人々の無限の愛と支援に対する感謝の気持ちを、改めて心に刻みたいと思います。



富田紗穂子氏
生命・応用化学専攻
博士後期課程3年

この度は名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございました。受賞にあたり評価していただいたこれまでの研究業績は、所属する研究室の皆様、共同研究者の方々、家族のサポートがあってこそのものであり、改めて感謝申し上げます。

大学進学前から研究者を志し、現在は光刺激によってその機能を発揮するタンパク質について、その機能発揮メカニズム解明を目指し研究を行っております。日々試行錯誤を繰り返して、ほんの少しずつデータを蓄積する中、未来賞の受賞ができたことは、自分にとって自信につながりました。

研究者として活躍するための基礎を学ぶ中で、自分の成果で病気に苦しむ人を助けたいと思い、また企業での研究職に興味を持ったため、来年度からは製薬企業での研究に取り組みます。研究を行う環境が大きく変わりますが、今後も研究者としてのキャリアを積み上げていけるよう精進して参ります。また、本学の課程博士学生として、博士進学を考えている後輩の方々にとってロールモデルの一つとなれるよう努力を続けて参ります。

(2) 研究支援員制度

本制度は、男女を問わず出産、育児、介護もしくは看護、それ以外の生活上の理由のために、十分な研究時間を確保できない教員等に研究支援員を配置することで、生活と研究業務の両立を図るための支援をするものです。

研究支援員の身分はパートタイマーとし、研究支援員として雇用できるのは本学の大学院に在籍する学生、本学の卒業生です。「学生研究支援員」の勤務時間は1週間あたり19時間以内、「卒業生研究支援員」の勤務時間は1週間あたり30時間以内です。

利用対象者

以下のいずれかの要件を満たす本学の教員及び研究員

- ・妊娠中の者又は産後休暇を承認された者
- ・育児休業等を取得している者
- ・中学校就学の始期に達するまでの子（配偶者の子を含む）を主として養育する者
- ・介護休業等を取得している者
- ・介護保険法で規定する要介護者または要支援者を主として支援する者
- ・家族のうち看護を必要とする者を主として看護する者
- ・女性の教員等（教授を除く）で、生活上の理由により特に研究業務の支援を必要とする者

利用者の声

淵上 輝顕先生（しくみ領域・助教）

妻はエンジニアで会社勤めをしており、2歳の子どもの育児を二人で分担しています。私はセラミックスやナノ材料科学を専門にしていますが、これらのモノづくりや評価には長い時間が掛かります。そのため、育児で早く帰宅する日には実験研究が思うように進められず悩んでいました。男性でも「研究支援員制度」が利用できることを知り、迷いましたが、育児と研究の両立のために申請しました。研究室所属の学生さんに週2日、研究支援員として、長時間かかる合成実験



を実施してもらいました。そのおかげで、多くの実験結果が得られ、データ整理や資料作成に時間を当てることができようになり、国際学会と国内学会で口頭発表、加えて論文執筆を進めることができました。育児にもある程度の余裕ができ、家事や子どもと向き合うための時間が増えました。さらに、私が支援制度を利用したことで、妻は気兼ねなく仕事ができるようになったと喜んでいました。また、研究室の学生さんから卒業の際に、「ワーク・ライフ・バランスの新しいスタイルと大切さを先生の背中を見て学ぶことができました」と言われて、嬉しく思いました。男性の育児参加と女性の社会進出のために、新しい社会を作る学生さんに影響のある立場として、多くの方に支援制度を利用してほしいと思います。



(3) 女性研究者研究促進制度

女性研究者が、受託研究や民間企業との共同研究等につながる外部資金獲得の研究提案を行い、実現に至る例は全国的に未だ少数にとどまっています。本学では、この現状を変えるために、意欲ある女性研究者を対象に研究促進のためのインセンティブを付与して研究を支援する「女性研究者研究促進制度」を2017年度に発足しました。

学内の女性研究者研究促進制度選考委員会の審査により、2021年度は5名の女性研究者が採択され、研究費が支給されました。

対象

- ・将来の外部資金獲得、研究力の向上等に寄与する研究シーズを持っている、准教授、助教、特任教員、特任研究員、研究員等とする。
- ・准教授、助教にあつては、2022年度の学内研究推進経費（戦略的研究、将来を見据えた研究、若手研究）の申請、もしくは、2022年度内の外部資金申請（導入）を前提とした申請であることを条件とする。

採択者の声

「新規データベースと機械学習を併用した蓄電池材料探索」

しくみ領域 特任教員 武田はやみ

実験とデータ科学を併用した効率的な新規蓄イオン電池材料の探索方法を追求しています。ベイズ推定に基づく機会学習を併用し、導電性向上につながる因子分析を行うため、データベースの拡充と専門的な機械学習スキルが必要と考えていました。

そこで、本助成金を利用して、機械学習についての講義を受講し、データ解析スキルの向上に努め、解析のために必要な類似データの収集を行いました。また、本助成金により、先進材料技術に関する学会、Materials Research Society of Japan (MRS-J) 年次大会およびMaterials Research Meeting 2021に参加することができました。両学会への参加から、今日の電池材料開発に関するデータ科学の重要性を再認識することができました。

今後は、習得した解析技法を駆使してデータ分析を行い、特性に関与する因子の特定を進めていく予定です。

「改革開放(1978年)後の中国の建築構法と建築意匠の関係の発展における日本の建築との接点の考察」

社会工学専攻 建築・デザイン分野 助教 陳擘

助成により研究環境を整え、研究の参考資料を入手し、建築意匠と建築構法に関するテクトニック(Tectonic)を中心に研究を進めました。同時に、創造的な建築構法を用いる建築事例の研究、建築物の言語分析により設計思想を分析し、設計手法を探る研究、高齢者の居住空間における「もの」の架設関係の研究等の建築構法・計画・インテリアの研究も進め、学術論文集や、国内外の会議での発表で研究成果を蓄積できました。また、Tectonicの中訳である「建構」に着目し、中国の建築専門誌に掲載された学者の言説における「建構」と「建構」の関連テーマの肯定的・否定的な関係の解明をもとに、Tectonicの中国での発展、およびその発展における日本建築との連関を探る研究を進め、これをもとに、査読付き学術論文の投稿を進めています。

「嫌気性呼吸細菌を用いた水環境水質保全工学の推進」

社会工学専攻 環境都市分野 准教授 吉田奈央子

本制度の助成により、塩素化エチレン汚染環境の生物学的環境修復（バイオレメディエーション）研究における具体的効果として、スーパーゼネコン3社との共同研究を進め、大量培養時の課題であったステンレス容器における活性の不安定さの要因をつきとめ、安定的に培養できることを示す進展がありました。この成果により、令和3年度土木学会環境賞を受賞しました。

また、下水道のエネルギー自立化研究においては、1社の共同研究、1社の学術指導、1社の受託研究が新たに開始され、2022年度の科学研究費補助金基盤研究(B)および学内研究推進経費 融合研究チャレンジ支援に採択されました。

「微視組織制御による高強度アルミニウム合金の高性能化」

物理工学専攻 材料機能分野 助教 成田麻未

本制度の支援を受け、圧縮ねじり加工法を用いた微視組織制御による高強度アルミニウム合金の高性能化に関して研究を行いました。既存の卓上温度制御器の修理をするとともに、新たに装置（手動プレス機）を導入して、研究活動を円滑に行うことができました。これによって、一定の成果を得ることができ、2022年度の外部資金獲得（豊田理研スカラー）につながりました。これまでに得られた研究成果は、第31回 材料フォーラムTOKAIにて学生が発表し、さらに、2022年5月には、軽金属学会春期講演大会にて発表を行う予定です。

「次世代エネルギー環境社会に向けた電力SCMの数理統合モデルの開発」

社会工学専攻 経営システム分野 准教授 孫晶

次世代エネルギー環境社会に向けた電力サプライチェーンにおけるビジネス施策を提案することを目指して、電力の生産市場モデル、電力市場モデル、消費者市場モデルの3つが構成された統合モデルを構築しました。具体的には、再エネの割合と需要変動などの動的な電力サプライチェーン環境に合わせたマルチエージェント手法・ビッグデータ解析手法・最適化手法を融合した設計アプローチの提案をし、モデルのシミュレーションを行い、結果を考察しました。

この研究の成果をICPR2021の国際会議及び日本経営工学会などで報告し、さらに、2022年の8月には、P&OM国際会議で発表する予定です。

(4) 英語論文校正支援

本制度は、出産、育児、介護等のために十分な時間を確保できない教員等が、英語論文の校正を委託する際にかかる経費を補助することにより、教員等の生活と研究業務の両立を図るための支援をすることを目的としています。一件につき上限を3万円とし、1名につき年間3件までとします。

利用対象者

以下のいずれかの要件を満たす本学の教員及び研究員

- ・妊娠中の者又は産後休暇を承認された者
- ・育児休業等を取得している者
- ・中学校就学の始期に達するまでの子（配偶者の子を含む）を主として養育する者
- ・介護休業等を取得している者
- ・介護保険法で規定する要介護者または要支援者を主として支援する者
- ・家族のうち看護を必要とする者を主として看護する者
- ・女性の教員等（教授を除く）で、生活上の理由により特に研究業務の支援を必要とする者

(5) NITech CAN「女性研究リーダー養成塾」

第1回研究力向上セミナー「外部資金の獲得に向けて」

2021年8月26日、女性研究リーダーの育成を目的とした研究力向上セミナー「外部資金の獲得に向けて」を開催しました。

生命・応用化学系プログラム 柴田哲男教授から「研究の進め方と外部資金の獲得」と題して、研究テーマの背景、社会的影響について「よく調べる」ことの大切さについて、ご自身の研究テーマを例にお話しされ、多方面からの深い背景理解によって研究の独創性を高めていくことを体系的に解説されました。また、審査員を務めたご経験から、誠実な研究への姿勢が申請書の中にも表れるので、真摯な取組みを長年続けることが重要であるとお話しされました。

リサーチ・アドミニストレーション室 URA 藪上あづさ氏より「申請書作成のポイント」と題して、科研費および助成金の申請書作成時に注力すべき点、及び、効果的な研究計画の見せ方についてご説明いただきました。

学部生、教員等 27 名が参加し、参加者からは「資金獲得が難しいことがよくわかりました。やはり地道に真面目に長期間研究に取り組むことが必要だとわかりました。」「オリジナルな研究の重要性を改めて認識いたしました。」などの感想が寄せられました。

日時： 2021年8月26日
講師： 本学 生命・応用化学系プログラム 柴田哲男教授
本学 リサーチ・アドミニストレーション室 藪上あづさURA
会場： オンライン（Microsoft Teams）
対象： 教員・研究員・博士後期課程の大学院生
参加者： 27名



柴田哲男教授



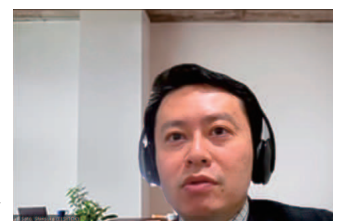
藪上あづさ氏

第2回研究力向上セミナー「アクセプトされやすい英語論文とは？」

2022年3月16日、第2回研究力向上セミナー「アクセプトされやすい英語論文とは？」をオンライン開催しました。

最初に、エルゼビア・ジャパン株式会社 佐藤慎祐氏に「出版社の立場から」と題してご講演いただきました。英語論文の投稿から出版までの一連の流れや、出版倫理、査読者と編集者の視点の違い、科学英語論文の基本的な作法についてツールや例を示しながらお話しされました。

続いて、電気・機械工学専攻 機械工学分野 玉野真司教授に「経験を踏まえたアドバイス」をお話しいただきました。投稿先を選ぶ視点や、査読者からの質問への回答時に気をつけることを、ご自身の事例を挙げながら説明されました。英語のネイティブではないハンデを克服する方法や、論文の質を高めるため、図や数式一つ一つを妥協せず磨くことの重要性など、分野を問わず今日から実践できるポイントを示していただき、参加者の執筆意欲を大いに喚起するセミナーとなりました。



佐藤慎祐氏



玉野真司教授

日時： 2022年3月16日、オンデマンド配信3月25日～4月15日
講師： エルゼビア・ジャパン株式会社 佐藤慎祐氏
本学 電気・機械工学専攻 機械工学分野 玉野真司教授
会場： オンライン（Zoom Meetings）
対象： 研究員・教員・大学院生
参加者： 当日23名、オンデマンド28名

(6) 女性研究者メンター制度 第5回メンター研修

「性の多様性をめぐる大学の課題—研究・教育・生活の場としての安全を保障するために—」

2022年3月11日、女性研究者メンター制度第5回メンター研修を工学教育総合センター第7回FD研究会と共同でオンライン開催しました。埼玉大学基盤教育研究センター准教授 渡辺大輔氏を講師にお迎えし、「性の多様性をめぐる大学の課題—研究・教育・生活の場としての安全を保障するために—」と題して、性の多様性に関する基礎的な説明と性的マイノリティへの支援や配慮方法、大学での取り組みについて、ご講演いただきました。また、性に関する様々なバイアスがある中で社会がつくられ、性的マイノリティへの配慮や支援を必要と「させている」こと、性的マイノリティは特殊な存在ではなく、自分自身もさまざまなセクシュアリティのうちの一人であり、みんなの問題として性の多様性を前提に社会システム全体をつくり直すことが必要だと気づく機会となりました。

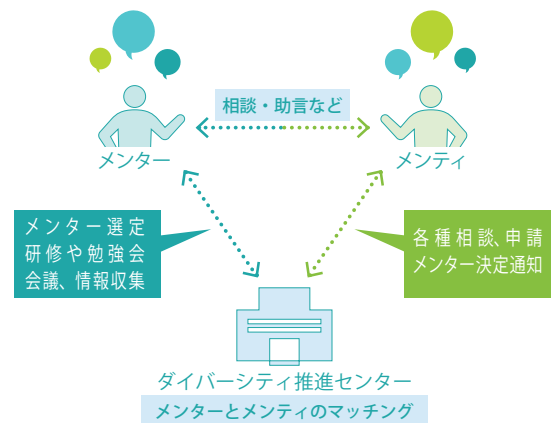
日時：2022年3月11日、オンデマンド配信3月22日～31日
 講師：埼玉大学基盤教育研究センター准教授 渡辺大輔氏
 会場：オンライン（Zoom Meetings）
 対象：本学所属の教員 ＊学内教職員聴講可
 参加者：当日46名、オンデマンド105名



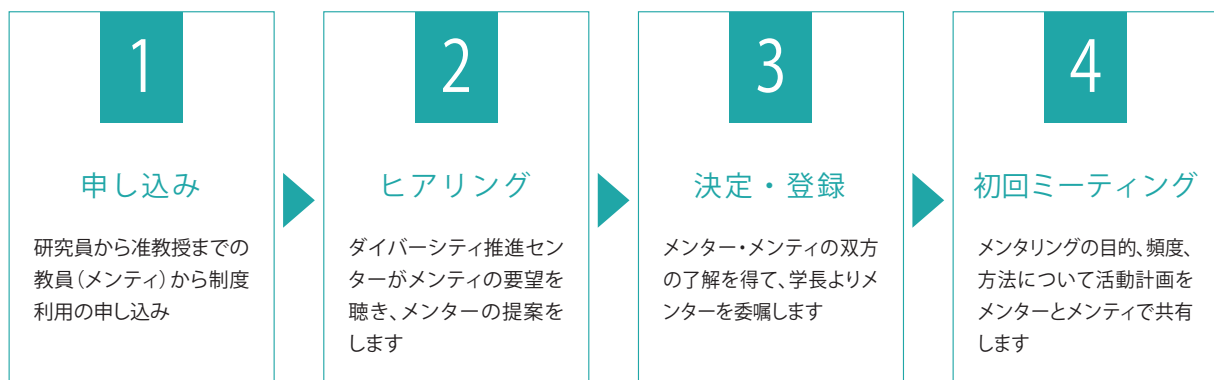
渡辺大輔氏

メンター制度とは

メンター制度は、一定以上の職務経験を持つ人（メンター）が、経験の少ない人（メンティ）に対して職務上または生活上のアドバイスや情報提供をし、メンティの職務や生活上の不安を解消する手助けをして、キャリアの向上や個人的な成長を促す個別支援制度です。



名古屋工業大学女性研究者メンター制度 メンタリング活動の流れ



(7) ライフイベント支援

1. ベビーシッター利用の補助制度

本学は、2015年度に「名古屋工業大学ベビーシッター育児支援実施要項」を制定し、本学教職員及び学生の育児と仕事、研究の両立のために四種類の支援をしています。

① 内閣府のベビーシッター派遣事業の割引券利用

子ども・子育て支援法（2012年法律第65号）第59条の2第1項に基づき、公益社団法人全国保育サービス協会が発行する「ベビーシッター派遣事業」の割引券を利用するものです。

補助の内容	サービス利用時に割引券提示で、1枚あたり2,200円の割引が受けられます。 ※利用料金が1回につき使用枚数×2,200円以上のサービスを対象とします。
利用可能枚数	対象児童1人につき1日（回）2枚まで（一か月24枚、一年280枚まで）
利用対象者	本学に勤務する教職員（パートタイマーの方は、厚生年金の被保険者に限ります）
利用対象となる子供	・乳幼児又は小学校3年生までの児童 ・その他健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童
利用の条件	・利用対象者がベビーシッターサービスを利用しないと就労継続することが困難な場合 ・出勤簿にて出勤が確認できること ・利用者の家庭内における保育や世話並びに家庭と保育所との送迎である場合 ・公益社団法人全国保育サービス協会が認定しているベビーシッター事業者の利用に限る

② 大学契約ベビーシッターサービス「千種シッターサービス」

本学独自の契約により本学の教職員及び学生は、会員料金で大学近隣の保育施設「千種シッターサービス」を利用できます。また、本学に勤務する教職員（パートタイマーの方は厚生年金の被保険者）への利用料の補助等も行っています。

利用対象者	本学の教職員及び学生
補助の内容	会員料金でベビーシッターサービスを利用できます。 なお、本学に勤務する教職員（厚生年金の被保険者である非常勤職員を含む）は、申請により一家庭につき一日（回）あたり700円の補助が受けられます。
利用対象となる子供	・乳幼児又は小学校3年生までの児童 ・その他健全育成上の世話を必要とする小学校6年生までの児童
利用可能サービス	・シッタールーム利用 ・シッター派遣（※ベビーシッター派遣事業割引券を利用することはできません）

③ 病児・病後児保育支援制度

本学教職員が養育する児童が病気にかかり、通常使用している保育施設等での保育が困難な場合に、一時的にベビーシッターサービスによる病児・病後児保育を受け、業務の遂行を可能とする支援制度です。

補助の内容	登録料の全額及び利用料金の半額を大学が負担します。 <利用料金> 7:00 ~ 9:00 2,150円/時間 (税別) 9:00 ~ 18:00 1,950円/時間 (税別) 18:00 ~ 19:00 2,150円/時間 (税別) ※前営業日18:00以降の連絡は1,000円/時間の加算、市内通勤費加算850円/回等があります。 ※最低利用時間は、2時間です。
利用対象者	本学教職員
利用対象となる子供	本学教職員が養育する小学校3年生までの児童
利用の条件	①病児保育：病気にかかっているが、感染性の強い病気でなく、当面の症状の急変が認められない場合においての一時的な保育 ②病後児保育：病気の回復期であるが、通常使用している保育施設等での保育が困難な場合等においての一時的な保育

④ 学会託児サービス利用補助制度

本学教職員・研究員（非常勤含む）が学会大会及び付随する会議に出席するために、その会場等で学会により提供される託児サービスを利用する場合に、託児サービス利用料金の補助をする支援制度です。

支援の内容	学会により提供される託児サービス利用料金の補助が受けられます。
利用上限	補助額は1申請者につき年間1万円を上限とする
利用対象者	本学に勤務する教員・研究員
利用対象となる子供	本学教職員・研究員が養育する小学校6年生までの児童
利用の条件	・学会大会及び付随する会議に出席するために、学会により提供される託児サービスを利用する場合 ・開催日数、出席日数に関わらず、学会あるいは会議への出席1回ごとに1申請とする ・1日につき4時間を超える託児サービス利用を補助対象とする

2. 保育室・一時保育サービス

ダイバーシティ推進センター交流サロンi-cafeには小規模の保育室があり、育児休業中の職員のセミナー出席や休日出勤する教職員のために一時保育サービスを行っています。

2021年度は、大学入学共通テスト、健康診断、婦人科検診時の利用募集に対し、大学入学共通テストと婦人科検診時に利用がありました。本学で開催される学会やセミナーの際にもご活用いただけます。

(1) 女性技術者リーダー養成塾

2021年8月24日、ダイバーシティ推進センター主催「第7期女性技術者リーダー養成塾」を開講しました。本養成塾は製造業に勤めている女性技術者のための講座で、女性技術者リーダーとして長く活躍し続けるために必要なスキルと視点を学ぶとともに、品質管理や組織運営について体系的に学び、現場での問題解決に役立つ技能を習得することを目的としています。

今期は、プロジェクトマネジメント、リーダーシップ、マーケティング、知財戦略の講座を新設して、カリキュラムを一新しました。8月から10月にかけての4日間にわたって、キャリアデザイン、リーダースキル、ものづくりの現場に特化したプロジェクトマネジメント、品質管理、イノベーションのためのマーケティング、知財戦略についての講義と演習が行なわれ、企業15社から19名の女性技術者が受講しました。

11月12日には、卒塾式と塾長講演会を名古屋工業大学4号館ホールにて開催しました。卒塾式では、一人一人に修了証が授与される際に、塾生が「リーダーになるための行動宣言」として、本養成塾で学んだことを今後職場でどのように活かし、どんなリーダーになるのか、スピーチをしました。

塾長講演会では、株式会社光機械製作所 代表取締役社長 西岡慶子氏（名古屋工業大学客員教授）が「経営に活かすダイバーシティの力」と題して、雇用状況が目まぐるしく変化中、リーダーに求められることを説明し、ご自身の経験から学んだプロフェッショナルの条件、よきリーダーとして心がけるべきことについてお話しされました。

卒塾式・塾長講演会には、塾生とその上席者等39名が出席し、塾生からは、「自分がリーダーになるために一番最初に何をしたら良いかということをよく考えることができました。」「困難を乗り越えてこられた塾長のキャリアに心を打たれたとともに、ダイバーシティの持つ力を深く理解することができました。」という感想が寄せられました。



2021年度「第7期女性技術者リーダー養成塾」の実施内容

実施日	内 容	講 師
8月24日 オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 自分とチームを信じてキャリアビジョンを描こう アフターコロナに向けたキャリアラダーの展望と実践 	株式会社 eight 代表取締役 鬼木 利瑛氏 株式会社光機械製作所 代表取締役社長 (名古屋工業大学 客員教授) 西岡 慶子氏
9月7日 オンライン	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト・マネジメント：新しい価値を創造するために コミュニケーションの基本スキルを考える 「ポカミス」をテーマにものづくりの安全を考える 	名古屋工業大学 大学院 工学研究科 / ものづくりテクノセンター長 北村 憲彦教授 名古屋工業大学 大学院 工学研究科 鷲見 克典教授 名古屋工業大学 大学院 工学研究科 神田 幸治准教授
9月28日 オンライン	<ul style="list-style-type: none"> 「品質」をテーマにものづくりのマネジメントを考える 製品開発にいかすマーケティング手法 ものづくり現場における私らしいリーダーシップスタイル 	愛知工業大学 経営学部 教授 (名古屋工業大学 名誉教授) 仁科 健氏 株式会社電通 中部支社 シニア・コンサルタント 安藤 真澄氏 トヨタ自動車株式会社 パワートレーン製品企画部 主査 (名古屋工業大学 特任准教授) 落合 清恵氏
10月19日 オンライン	<ul style="list-style-type: none"> ものづくりにおける知財マネジメント 成果を引き出すためのチームビルディングの実践 	INPIT 愛知知財総合支援窓口 事業責任者 池原 敏郎氏 日本アイ・ビー・エム株式会社 執行役員 (名古屋工業大学 特任教授) 我妻 三佳氏
11月12日 対 面	<ul style="list-style-type: none"> 卒塾式・塾生スピーチ「リーダーになるための行動宣言」 塾長講演「経営に活かすダイバーシティの力」 	株式会社光機械製作所 代表取締役社長 (名古屋工業大学 客員教授) 西岡 慶子氏

対象者 : 製造業に勤めている意欲的な女性技術者

参加者 : 企業15社より19名

(2) 産業論

2021年11月26日から12月2日にかけて、共通科目「産業論」において、「ダイバーシティセミナー」がオンデマンドにて実施されました。この授業は、工学技術者として、産業社会への責任と自分のキャリアについて考える力の涵養を目的とする工学部第一部2年次の必修科目で、約950名が受講しました。

講師に株式会社豊田中央研究所 牧野玲子氏、トヨタ自動車株式会社 落合清恵氏をお迎えし、企業のダイバーシティとキャリア形成についてお話いただきました。

冒頭で、ダイバーシティ推進センター加野泉特任准教授から、ダイバーシティの概念や背景についての説明があった後、牧野玲子氏が「女性技術者の継続的なキャリア形成」について、落合清恵氏が「大学時代の学び・経験、どう仕事に生きるか」をテーマに講義をされました。牧野氏は、これまでの自身の人生における五つの大きな転機を示しながら、ネットワークを広めながら自己の専門性を高めて、数々の困難を乗り越えてきた経験をお話しされました。落合氏は、20代から40代までのご自身の担当業務に大学での学びがどのように役立ったか、さらにキャリアを発展させていくために必要な視点や行動についてお話しされました。

学生にとって、ものづくりの場にダイバーシティ視点を取り入れる意義について考えるとともに、将来に向けて学生時代に、自分自身がどのようなアクションを起こしていくことが必要か、深く掘り下げて考える機会となりました。



落合清恵氏

牧野玲子氏

- 11月26日 電気・機械工学科、創造工学教育課程（電気・機械関係分野）
- 11月29日 社会工学科、創造工学教育課程（社会工学関係分野）
- 12月 1日 生命・応用化学科、創造工学教育課程（生命・応用関係分野）
- 12月 1日 情報工学科、創造工学教育課程（情報関係分野）
- 12月 2日 物理工学科、創造工学教育課程（物理工学関係分野）

講師：株式会社豊田中央研究所 アントレプレナー研究企画・推進室 主任研究員 牧野玲子氏
トヨタ自動車株式会社 パワートレーン製品企画部 主査 落合清恵氏
(名古屋工業大学 ダイバーシティ推進センター 特任准教授)

(1) NITech CAN「工学女子キャリア形成塾」

第1回 英語プレゼンテーションセミナー

2021年9月から11月の5回にわたり、Leafy Learn代表ヤング・タム先生を講師に迎えて、英語プレゼンテーションの基本スキル向上を目指すセミナーをオンライン開催しました。

第1回は、マインドマップを活用したプレゼンテーションの構成の考え方を学びました。第2回では、内容の組み立て方、焦点の絞り方について学びました。第3回は、オンラインプレゼンテーションで必要となる聴衆をひきつけるハンドジェスチャーや声のトーンを中心に、プレゼンターとしてのふるまい方を実践的に練習し、第4回では、使用するスライドについて、少ない情報で明確に論点を伝えるための効果的な方法を学びました。受講生は効果的なハンドジェスチャーや声のトーンを取り入れながらプレゼンテーションを行うことに苦心しながらも、練習を重ねました。最終回の第5回では、全員が一人ずつ完成したプレゼンテーションを行い、質問にもスムーズに対応することができるようになりました。

日時：2021年9月22日、10月6日、10月20日、11月10日、11月24日
 講師：Leafy Learn 代表 ヤング・タム氏
 会場：オンライン（Zoom Meetings）
 対象：教員・研究員・博士後期課程の大学院生
 参加者：8名



第2回 知りたい!大学院進学後の学びとキャリア

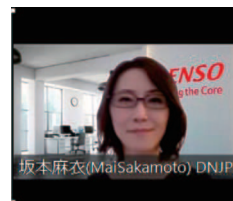
2022年2月25日、工学女子キャリア形成塾「知りたい!大学院進学後の学びとキャリア」をオンライン開催しました。

最初に、生命応用化学専攻 D3 富田紗穂子氏より、「『研究職』へのあこがれと医薬品研究職内定までの道のり」と題してお話いただきました。早い時期から抱いていた研究職への憧れを、部活や研究室の先輩とのコミュニケーションの中でさらに強めて、研究室選択や大学院進学を決意した過程や、博士後期課程に進むと決めた時に抱きがちな不安をどのように解消していったかを時系列で説明されました。

後半は、株式会社デンソー AD&ADAS 技術2部 第1技術室 技術1課 担当課長の坂本麻衣氏（電気情報工学専攻 知能情報システム分野OG）を講師にお迎えし、「女性技術者としての歩みとキャリアデザインのヒント」についてお話いただきました。坂本氏は、好きなことを学び、仕事にしていくなために、数々の選択を一つ一つ自分に正直に大切に行ってきたこと、また、失敗した時にも、その受け止め方、その後の対応の仕方でも道を開いていけることを、経験に基づいてわかりやすく受講生に伝えられました。

15名の学生が受講し、目標に向かってまっすぐ進み活躍する二人の先輩から大きな刺激を受けました。

日時：2022年2月25日
 講師：本学 生命応用化学専攻 D3 富田紗穂子氏
 株式会社デンソー AD&ADAS 技術2部 第1技術室 技術1課 担当課長 坂本麻衣氏
 会場：オンライン（Zoom Meetings）
 対象：学部生・大学院生
 参加者：15名



(2) 全学に向けたダイバーシティ教育

本学では、ダイバーシティ推進、男女共同参画をテーマとする授業を学部・大学院で正課科目として開講しています。ダイバーシティ推進センター教員が担当し、次世代を担う技術者として弁えるべきジェンダー平等の意識や多様な文化への配慮について、実例をもとに深く考察する機会を設けています。

■男女共同参画社会論（共通科目3年次前期・2年次後期）

「男女共同参画社会論」では、現代社会における性別をめぐる諸問題について理解し、なぜ男女共同参画が必要なのか、どうしたら男女共同参画社会を実現できるのかを考察します。ジェンダー論の基礎、家族関係、教育システム、労働環境、社会政策における諸問題を国際比較も含めて学び、性別にかかわらず個人の人権が尊重される社会の在り方を考察しています。2021年度は、トヨタ自動車株式会社 パワートレーン製品企画部 落合清恵氏、株式会社デンソーOBの鈴木康利氏をゲスト講師に迎え、企業における男女共同参画の課題、対応策、女性技術者のキャリア形成についての現場の生の声を聞く機会を設けました。

■ダイバーシティ・マネジメント（社会工学科経営システム分野3年次前期）

「ダイバーシティ・マネジメント」は、毎回テーマを提示して学生にディスカッションやプレゼンテーションを課すアクティブラーニングの形式で行っています。「差異を生かすマネジメント」を講義のメインテーマとして、講義、グループワーク、ディスカッションを行い、理解を深めました。また、ジェンダー・ダイバーシティ、エイジ・ダイバーシティのゲスト講師として株式会社デンソーOBの鈴木康利氏を迎え、女性活躍と若手社員の成長についてグループディスカッションを行いました。各論点の学びを深めた後、最終回には、「ダイバーシティ・マネジメントはなぜ必要か」をテーマに全員が個人発表を行いました。

■ダイバーシティ社会論Ⅰ・ダイバーシティ社会論Ⅱ（大学院共通科目）

「ダイバーシティ社会論Ⅰ・ダイバーシティ社会論Ⅱ」は大学院博士前期課程の共通科目として、2020年度から開講されています。この授業は、SDGs（持続可能な開発目標）達成に向けたダイバーシティ・マネジメントを理解することを目的としています。

授業では、特にSDGsの人権アプローチに焦点を当て、「ダイバーシティ社会論Ⅰ」では、SDGsの歴史的、思想的背景と、それぞれのゴールの読み解き方を学び、「ダイバーシティ社会論Ⅱ」では、企業の経営戦略としてSDGs、ダイバーシティが導入される背景、地域での各取組を学びました。最終回では、受講生が個々に、この潮流の中での、新たな教育・人材育成モデルを構想し、ポスター発表及び合評を行いました。

(3) 次世代萌芽インセンティブ

学部から大学院博士前期課程への女子学生の進学者に比べて、将来の女性研究者候補である大学院博士後期課程への進学者は、極めて少ないのが現状です。工学分野のダイバーシティ推進のためには、博士後期課程への進学を支援することが急務であると考え、女子大学院生の研究キャリアのスタートを支援する「次世代萌芽インセンティブ制度」を2018年度に発足しました。2021年度は、2名の大学院生が採択され、国際会議で研究成果を発表しました。

- 対象**
- (1) 博士前期課程2年在学中の女子大学院生で、本学大学院博士後期課程への進学が決定している者。
 - (2) 博士後期課程在学中の女子大学院生。但し、スタートアップ助教を除く。

(4) 女性同窓会「鶴桜会」・「OG人財バンク」

1. 女性同窓会「鶴桜会」

鶴桜会は、「年に一回会いましょう」を合い言葉に、女性卒業生や現役女子学生が交流でき、縦と横の繋がりを持てる場として2016年に設立した女性同窓会です。

2021年10月30日、第5回年次交流会を開催しました。本年は、コロナ禍の影響によりZoomによるオンライン開催とし、OGや現役女子学生のほか、名古屋工業会理事長はじめ関係者25名が参加しました。参加者全員の自己紹介、OGのミニ講演会、小グループに分かれての座談会が行われ、交流会は盛況のうちに終了しました。



2. 「OG人財バンク」

2014年に発足した「OG人財バンク」は、ライフイベント等で社会の第一線から退いた本学OGを研究支援員として起用することで、専門性を活かした高度な支援を女性研究者に提供すると同時に、支援員となる本学OGにも再チャレンジのきっかけを提供するという、双方にメリットのある仕組みとして考案されました。現在では、社会の第一線で活躍する女性卒業生も含めた全ての本学OGを登録対象とし、学内外からのさまざまな要望に応えられる工学系女性人財の情報バンクに成長しています。



(5) 女子学生団体「彩綾～SAYA～」

女子学生の少ない本学で、学科・学年を超えた女子同士のつながりを持つことや、女子のキャリアをサポートすることを主な目的として活動する女子学生団体です。理系女子のキャリアを考えるイベントと並行して、SAYA内でのメンバー同士の交流を深められる楽しい企画も行っています。



2021年度メンバー：合計41人

【学年別】 M2：3人 M1：2人
B4：14人 B3：5人 B2：12人 B1：5人

【学科別】

生命・応用化学専攻・学科：11人 電気・機械工学専攻・学科：20人
物理工学専攻・学科：0人 情報工学専攻・学科：5人
社会工学専攻・学科：2人 創造工学教育課程：3人

【活動内容】

<徒労会 × 彩綾>

企業の人事担当者から、説明会では聞けない内容についてトークセッション

参加学生：20名

参加企業：アイカ工業(株)、愛三工業(株)、愛知時計電機(株)、(株)青山製作所、
(株)ニッセイ、(株)FUJI、河村電器産業(株)、CKD(株)、大同メタル工業、
高砂電気工業(株)、竹本油脂(株)、林テレンプ(株)、ホーユー(株)

(五十音順・敬称略)

徒労会
× 彩綾
～就職活動最前線
人事担当者との
ぶっちゃけトーク会～
2022年1月14日(金)15:00～17:30

企画内容
①企業紹介クイズ!!!
②採用担当者との
ぶっちゃけトーク!!!
③企業・業界についての
質問コーナー!!!

参加企業一覧↓
高砂電気工業株式会社
河村電器産業株式会社
愛知時計電機株式会社
ホーユー株式会社
林テレンプ株式会社
CKD株式会社
愛三工業株式会社
株式会社青山製作所
大同メタル工業
アイカ工業株式会社
竹本油脂株式会社
株式会社ニッセイ
株式会社FUJI
(順不同、敬称略)

対象：名工大の女子
全学年
開催：ZOOM
お申し込みは
こちらから!!

(6) 女子学生向け夏季オープンキャンパス

2021年8月6日、オープンキャンパスにて女子学生団体彩綾～SAYA～の協力のもと、女子学生向け相談コーナーを設けました。

オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、高校3年生に限定した事前予約制で開催されました。相談コーナーには16名が訪れ、受験、学科、学生生活、就職などについて、彩綾のメンバーに積極的に質問していました。

経験に基づく彩綾のメンバーの親身なアドバイスが参加者に大変好評で、「丁寧に答えていただいて、とても分かりやすかったです。」「大学生活の話聞いて、来年が楽しみにになりました。」などの声が聞かれました。



日時：2021年8月6日 9:00～16:30

会場：4号館 会議室3 (相談コーナー)

参加者：16名

(7) 女子中高生工学進路選択支援サイト「工学の扉を開こう」リニューアル

2022年2月から3月に、女子中高生工学進路選択支援サイト「工学の扉を開こう」で、新たな動画3本を公開しました。本サイトは、2020年12月から2021年3月に公開し、好評を博した大学間連携イベントサイト「女性が拓く工学の未来」を、2021年度より名古屋工業大学単独主催のサイトとして改変したものです。

今回新たに公開したのは、電気・機械工学専攻 機械工学分野 田中由浩研究室紹介、情報工学専攻 知能情報分野 加藤昇平研究室紹介と、社会工学系プログラム 建築・デザイン分野で学ぶ大学院生3名による分野紹介です。

田中研究室の動画では、田中由浩教授が触覚をテーマに選んだ背景や、触覚研究の持つ可能性についてお話しされた後、学部4年生の伊藤万由子さんが取り組む遠隔コミュニケーションでの触覚の伝送技術の研究、湯川光特任助教が取り組む複数人の触覚を融合する技術の研究が紹介されています。

加藤研究室の動画では、学部4年生の杉浦順香さんがナビゲーターとなって、加藤教授や研究室の仲間にインタビューをし、豊かな未来社会を実現するためのAIとロボット技術の研究紹介をするとともに、研究室のメンバーが情報工学を志した動機や、普段感じている研究室の魅力について掘り下げました。

建築・デザイン分野の紹介動画では、意匠設計、構造分野の研究を行う大学院生伊藤あづみさん、井上玉貴さん、河内遙さんが、学生の視点から建築・デザイン分野での学びや学生生活について紹介した後、須藤美音准教授にインタビューをして、建築環境研究の内容と女子中高生へのメッセージをお話いただきました。

本サイトは、女子中高生を中心に工学部での学びやその魅力、将来のどのような職や研究につながっていくのかを具体的に伝え、次世代を担う多くの女子学生に工学分野への関心を高めていただくことを目的として、常時公開しています。今後も工学の幅広い可能性を伝えるため、継続してコンテンツの充実を図っていきます。



動画コンテンツ

研究室紹介

▶ 機械工学分野



触覚を共有!?

人により感じ方の違う触覚研究は様々な分野で役立つ可能性が無限大!

▶ 知能情報分野



AI技術とロボット

感情豊かなロボットの開発が高齢者支援に役立つ!

現役女子学生の視点

▶ 建築・デザイン分野



建築女子の目線・考え・新しい価値観が建築の未来・形を変えていく可能性も!



女子中高生進路支援

工学の扉を開こう

オンライン公開中



日時 : 2021年4月1日より改変し、常時公開
会場 : オンライン (Web公開)
対象 : 女子中学生・高校生・大学学部生
アクセス数 : のべ14,027人 (2021年4月1日～2022年3月31日)

(8) 女子小中学生のためのプログラミング体験講座

AI×Scratchで「絶対に負けられないじゃんけんゲームを作ろう！」

2022年3月21日、女子児童・生徒が科学技術に触れ、理数系の学びへの関心を高める機会として、女子小中学生のためのプログラミング体験講座「AI×Scratchで『絶対に負けられないじゃんけんゲームを作ろう!』」をオンライン開催しました。

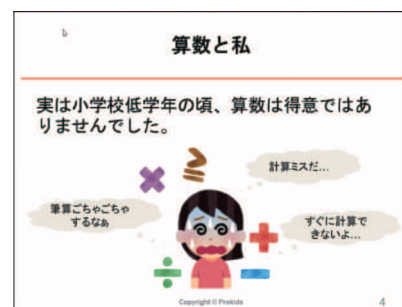
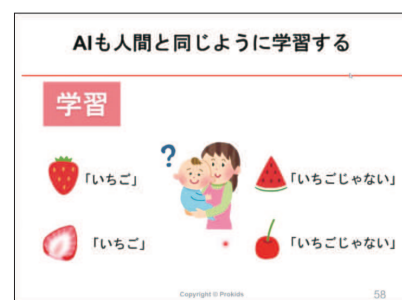
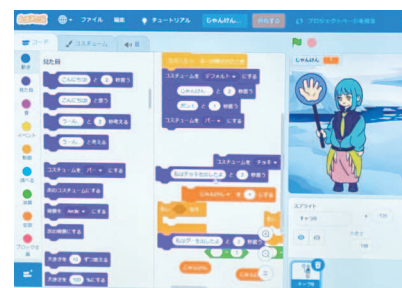
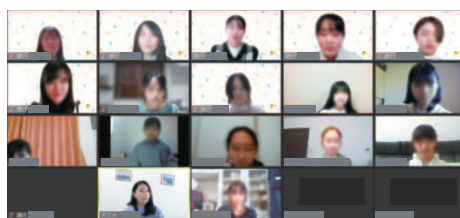
小学5年生から中学3年生までの11名の参加者が、株式会社プロキッズの指導のもと、じゃんけんゲームの制作に挑戦しました。3時間のイベントは、3部構成で行われました。第1部では、Scratchを使って普通のじゃんけんゲームを作り、第2部では、AIについて学んだ後、実際に参加者が自分のじゃんけんの手をAIに学習させる体験を行いました。第3部では、自分がAIに学習させたモデルを、第1部で作ったじゃんけんゲームに組み込むミッションに挑みました。

子どもたちは、「グーとパーは認識するけど、チョキの認識が甘いかな」、「どうしたら、キャラクターが絶対に勝てるようになるのかな」と考察しながら、ゲーム制作を進めていきました。

プログラミング未経験の子も多くいましたが、大学生がサポートに入り、ほぼ全員が、自分の選んだキャラクターが「絶対に勝つ」じゃんけんゲームを完成させることができました。

また、第2部、第3部の冒頭では、アイスブレイクとして、大学生サポーターが自身の子どもの頃の興味と進路選択について紹介しました。他大学で数学を専攻する女子学生は、数学を好きになったきっかけを話し、本学で情報工学を専攻する女子学生は、数学や理科よりも音楽が大好きで、その興味を生かせる進路として情報工学を選んだことを子どもたちに話しました。

イベント終了後の子どもたちへのアンケートでは、参加者全員が「またプログラミングをやりたい」と回答し、参加した子どもたちの満足度の高さが示されました。



日時：2022年3月21日
講師：株式会社プロキッズ
会場：オンライン（Zoom Meetings）
対象：小学校5年生～中学3年生の女子
参加者：11名

(1) 共に創る未来へII～女子学生・女性研究者からのメッセージ～

2022年3月、女子中高生、名古屋工業大学の新生に向けて名古屋工業大学のキャンパスライフ、学科での学びや卒業後のキャリアについて紹介するロールモデル集『共に創る未来へII～名古屋工業大学女子学生・女性研究者からのメッセージ～』を発行しました。

工学研究が人々の幸せの創出を視野に入れた「革新」を目指すものへと広がりを見せる中、柔軟で多様なものづくりを実現する女性の活躍が期待されています。本誌は、工学分野の女子学生の学生生活や研究、卒業後のOGの活躍を紹介し、工学系大学・大学院への進学のための選択を支援するために発行しました。

各学科、課程の学生と、技術者・研究者として活躍するOGのインタビューを掲載し、次世代を担う多くの女子生徒・学生が工学分野の学びと研究の魅力を知り、充実した未来を思い描けるような内容になっています。



(2) ニュースレター

ダイバーシティ推進センターの取組の詳細を紹介するニュースレターを2021年5月、7月、12月、2022年3月に発行しました。2021年5月は、研究支援特集号として臨時発行し、「女性研究者研究促進制度」、「リスタート研究支援制度」のほか、本学で利用可能な研究者のためのサポートプログラムを特集しました。



2017-22年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）

名古屋工業大学 ダイバーシティ推進センター
2021年度 事業報告書

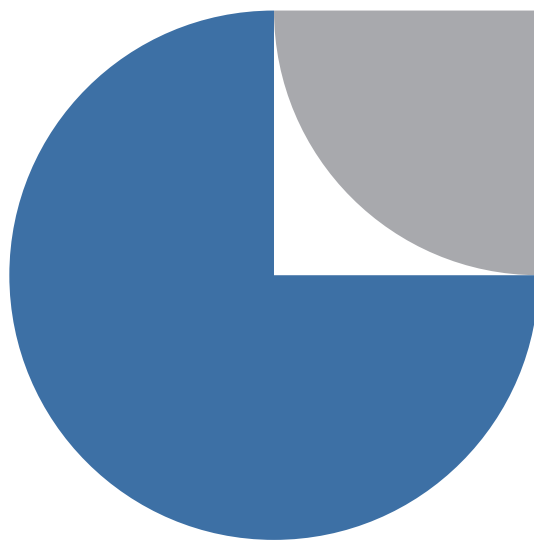
発行：国立大学法人 名古屋工業大学
ダイバーシティ推進センター


〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

E-MAIL：diversity-crew@adm.nitech.ac.jp

URL：https://diversity.web.nitech.ac.jp/

2022年4月発行



 国立大学法人名古屋工業大学
ダイバーシティ推進センター

〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町

TEL/FAX : 052-735-5121

E-mail : diversity-crew@adm.nitech.ac.jp

U R L : <https://diversity.web.nitech.ac.jp/>